

# 関電22年ぶり最高益3710億円

## 高浜原発の再稼働寄与

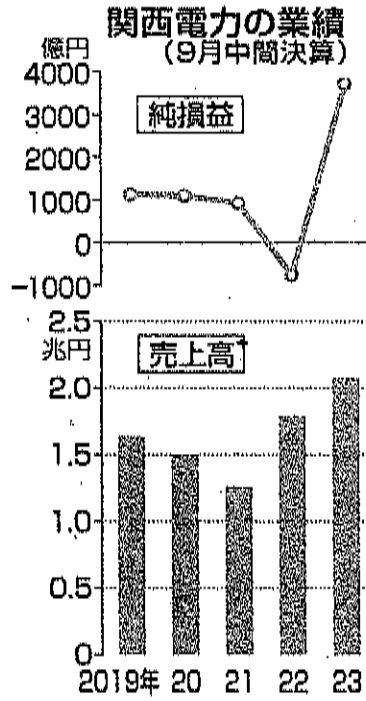
関西電力が30日発表した2023年9月中間連結決算は、純損益が3710億円の黒字（前年同期は763億円の赤字）となり01年9月中間決算以来、22年ぶりに最高益を更新した。高浜原発1、2号機（高浜町）の再稼働により原発の活用が進んだ。液化天然ガ

ス（LNG）の価格低下も寄与した。売上高も16・2%増の2兆730億円で過去最高だった。

森望社長は大阪市内で記者会見し、今後の電気料金の見通しに関し「値下げや還元策について決まったものはない。経営環境や収支状況などを慎重に見極めて

いく」と述べた。脱炭素への投資や財務体質の健全化を進める考えも示した。

原発は火力発電に比べて燃料などのコストが抑えられるため、業績にはプラスに働く。関電は高浜1号機が7月、2号機が9月にそれぞれ再稼働し、運転可能な原発全7基が稼働。期間中に原発がどの程度稼働したかを表す原子力利用率は、44・4%上昇の78・3%となった。為替や燃料価格の変動に伴う増益分は2150億円。小売り販売電力量は6・0%増の587億発時だった。



24年3月期の純利益予想

は、従来の3050億円から4050億円に上方修正した。売上高の見通しは販売電力量の伸び悩みを踏まえ、4兆3千億円から4兆500億円に見直した。